

■教育■



夏休み期間中、教員の指導力向上のため各地で研修会が開かれた。名古屋市の研修をのぞくと、主要教科に限らず学芸会に至るまで、新学期からすぐ活用できるアイデアが随所に取り組まれていた。教員の年齢構成が偏り、若手の育成に悩む学校の要請に応えた形。国も研修計画の見直しに本腰を入れ始めた。

(福沢英里)

劇団員からの声の出し方などの指導を受けた教員「いずれも名古屋市中村区の笛島小・中で

道徳の教科化に伴い、今年五月に名古屋市内で開かれた愛知県の道徳教育推進会議でも、若手育成が話題に。参加した小学校長からは「担任の七割が教職経験十年未満」と、それには伴う若手の大量採用による学校現場の年齢構成の偏りがある。ベテラン世代と若手世代をつなげるのは中堅層が薄く、両世代が断絶。少し年上の先輩から若手の後輩へ、技能や知識を自然に引き継ぐことが年々、難しくなっている。

〇七年の団塊世代の大量退職危機感を抱いた国は教員の資質や能力向上に向け、「教育公務員特例法」の一部を六年十一月に改正。昨年四月の施行を受けて各都道府県の教育委員会が、教員を養成す

ノウハウ指導 学芸会まで

プロを講師に

「やあみなさん、はじめまして」。ラップ調のリズムに乗って、女性教員が台本のせりふを読み上げた。二十人ほどの教員が順番に一人ずつせりふを声に出し、劇がテンポ良く進んでいく。名古屋市内で七月末から八月にかけ、小・中学校の教員を対象に開かれた教員研修の一コマ。ユニークなのが、この「学芸会」の講座だ。二〇〇一年度から始まった研修の一メニューとして五年前に加わった。

二〇〇一年度の講座は、名古屋市教育センター研修部の山

経験不足の若手を育成

る大学教員や学校関係者、PTAなどによる協議会をつくり、経験年数や適性に応じた教員育成の「指標」を定めた。例えば中堅なら「専門性を高める」、ベテランなら「より広い視野で役割を果たす」といった具合。キャリアを積んでいく上で、目指すべき道しるべを示した。

従来、教員向けの研修は、目次ごとに実施されてきた。今まで働き始めて数年、中堅、ベテランなど細かなステー

講師は名古屋市の「劇団うりん」の劇団員。子どもが好きな(こ)遊びの延長のように役になりきるため、緊張をほぐす簡単なゲームから伝授。その上で、子どもたちが意欲的に演じるための指導法が具体的に伝えられた。五年生の男性教員は「客席まで聞こえる声の出し方、役のイメージの伝え方など分からぬことばかり。研修で学んだことを秋の学芸会に生かしたい」と満足げだった。

一連の研修を主催した名古屋市教育センター研修部の山

実施する理由を説明する。研修のほかのメニューを見て



参加型の英語

修のほかのメニューを見て、も、主要教科から低学年向けの「生活」や学級づくりのヒントを伝える「学活」まで、至れり尽くせり。最近の教育課題に応じて、道徳や特別支援教育のほか、今年は小学校の外国語活動の講座も新たに加わった。

グループを作り英語の「他者紹介ゲーム」を楽しむ教員

